

られるものか、あるいは、遂行される運動にのみ関係するのことは明らかではない。そこで、同一の運動を用いて異なる課題をサルに行なわせ、その時の前頭前野ニューロンの活動を記録し、両者の比較を行った。

サルは片方の手でハンドルを握り、手首の屈伸により、決められたスタート位置から目標位置までハンドルを動かす。スタート位置、目標位置はランプで提示する。課題は、単純な遅延反応と、遅延を伴う弁別課題の2種を用いた。弁別課題時には、目標位置は、スタート位置の真上にあるランプの色の相違(赤又は緑)により提示した。

各々の課題で、遅延期のニューロンの活動を調べたところ、活動変化の見られないもの、屈伸両方向ともに活動増加を示すもの、屈伸の方向により活動の異なるものが見出された。課題間で比較したところ、有意な相違を示したものは少数(2/17)で、大部分は課題間で活動の相違は見られなかった。

従って、このような前頭前野ニューロンの活動は、遂行される運動に関係し、課題のちがいでよる変化は少ないことが示唆された。

海外交流

Yayat Ruhayat (インドネシア)

Padjadjaran 大学数学自然科学部学生助手

研究題目「霊長類の生態に関する研究」

国費外国人留学生、研修員

昭和53年1月19日～昭和54年5月31日

Edy Brotoisworo (インドネシア)

Padjadjaran 大学生態学研究所、研究員

研究題目「霊長類の比較社会学的研究、とくにヤセザル類について」

日本学術振興会外国人招へい学者

昭和53年4月24日～昭和54年6月15日

Amsir Bakar (インドネシア)

アングラス大学理学部講師

研究題目「霊長類下顎骨の性的二型の形態学的研究」

国費外国人留学生、研修員

昭和52年1月8日～昭和53年7月31日

日本学術振興会発展途上国科学協力事業・外国人招へい学者

Christian Vogel (ドイツ連邦共和国)

Göttingen 大学人類学教室主任

研究題目「①ニホンザルの野外観察・生態学・

社会行動学的観点から。②各研究所

大学における各種講演・特別講義・

ゼミナール等、霊長類学・人類学の

情報交換」

外国人研究員、客員教授

昭和53年8月10日～12月9日

Shiv Raj Kumar Chopra (インド)

Punjab 大学人類学教室主任教授

研究題目「古霊長類学および人類進化」

外国人研究員、客員教授

所内談話会

昭和53年度には所内談話会が7回開催された。

以下に演者と演題を記す。

1. 第63回 5月13日(土)

昭和52年度科研費海外学術調査南米調査隊帰

朝報告会。 近藤 四郎

渡辺 毅

瀬戸口烈司

伊沢 紘生(JMC)

西邨 顕達(同志社大)

2. 第64回 6月7日(水)

帰朝報告

University of California &

Oregon Regional Primate

Research Center

酒井 正樹

熊崎 清則

3. 第65回 9月13日(水)

ジャワ原人の発掘

相見 満

4. 第66回 10月11日(水)

The Langur Population of

Jodhpur (Rajasthan, India)

Christian Vogel (ゲッティンゲン大)

5. 第67回 11月14日(火)

インドネシアの文化紹介

Amsir Bakar (アングラス大)

6. 第68回 1月19日(金)

冠状血管の生理学 — カリフォルニア大学よ

り帰国して — 目片 文夫

7. 第69回 2月7日(水)

東アフリカ遊牧民の生活 — スライド供覧 —

田中 二郎